

名城大学機械会誌

発行所

名古屋市天白区塩釜口 1 丁目 501 番地
 名城大学理工学部機械工学科内
名城大学機械会
 TEL (052) 832 - 1151 (代)
 FAX (052) 832 - 1235
 URL: <http://meijo-kikaikai.jp/>

名城大学機械会 第 62 回総会のご案内

下記のように第 62 回総会を開催します。
 会員諸氏の多数のご出席を心よりお待ちしております。

名城大学機械会 会長 野村 隆

日 時 令和元年 6 月 9 日 (日) 9:30 ~ 10:20
場 所 名城大学天白キャンパス 共通講義棟南館 S402 教室
次 第 司会者、開会の辞、会長と学科長の挨拶
 議長団選出 (議長・副議長・書記・議事録署名者)
 議事 ・ 30 年度事業報告
 ・ 30 年度会計報告及び監査報告
 ・ 31 年度事業計画案
 ・ 31 年度予算案
 ・ その他

☆理工同窓会 記念講演・・・10:30 ~ 11:30 共通講義棟北館 N101 (名城ホール)
 講師・・・名城大学大学院 理工学研究科 終身教授
 日本学士院会員
 飯島 澄男 氏
 ~カーボンナノチューブの発見者~ (ノーベル賞有力候補)
 演題・・・ナノメートルの世界の科学と応用

☆理工同窓会総会・・・11:55 ~ 12:45 共通講義棟北館 N101 (名城ホール)
 ☆懇親会・・・13:00 ~ 14:30 タワー 75 15F レセプションホール



■名城大学正門アプローチ (平成 31 年 4 月 撮影: S46 卒 鈴木吉正)

令和とともに歩む新生機械会の構築にむけて

名城大学 機械会 会長 野村 隆
昭和 50 年卒



機械会会員の皆様におかれましては、益々お元気にご活躍のこととお慶び申し上げます。

さて、昨年 6 月に開催されました総会において江上前会長の後を受けて、会長の大役を仰せつかりました野村でございます。

歴代の会長が残した功績は現在の機械会の基盤になっております。昨年、一つの節目として機械会設立 60 周年事業を実施しました。その時、小生が 60 周年記念事業実行委員長を務めさせていただきました。機械会の歩みの中で何らかの形で機械会の活動に関わることができたことを光榮に思っています。

そして、会長職を引き受けた今、そんな軽い気持ちでいるわけにはまいりません。

時、平成 31 年、そして 4 月 30 日には厳粛に平成天皇陛下の退位の儀式が執り行われ、5 月 1 日、新たな令和天皇の即位の儀式が執り行われ、令和元年を迎えました。名城大学機械会もこの国事を契機にさらなる発展を目指さなければなりません。幸い、役員若返りも徐々にはありますが行われつつあります。

そこで、名城大学機械会はいままでの事業活動を含めて、大幅な見直しや提案を行って、新しい時代にマッチした同窓会づくりに取り組んでいきたいと考えております。

まず、役員構成であります。江上前会長を直前会長の役職名で役員会に残っていただくことにして、前田隼氏を新たに副会長に迎えました。同窓会組織は若ければよいというものではありません。大学の歴史や同窓会の歴史を若い世代に伝えていくことは極めて重要なことでもあります。堀川顧問、梶田顧問とともに若い世代に過去の重要な出来事を伝えていただきたいと考えております。

ありきたりではありますが、温故知新、故き（ふるき）を温ね（たずね）新しきを知る。先人の知恵に学ぶことが極めて重要であります。

次に、機械工学科は 3 年後に今までの 2 号館から新研究実験棟に移転します。その時には、機械会として何らかの形でバックアップしていきたいと考えております。そして、7 年後の 2026 年、名城大学は開学 100 周年を迎えます。名城大学機械会としてもその日のために何をなすべきかを皆さんと共に考えて、具現化し

ていきたいと考えています。そのための検討を今から積極的に進めていきます。

機械会会員の皆様におかれましても、母校の 100 周年に際して、なにとぞ絶大なるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

三つ目として、現在、機械会事業の抜本的な見直しを行いつつあります。

先輩諸兄も 4 年の時、熱く燃えたソフトボール大会も今では見直しの時期に来ております。卒業記念パーティーもしかりです。

これからの事業は機械工学科教員、卒業生、在校生が三位一体となって進めていく必要があります。そうした意味においても、これからの事業は教員、在校生とのコミュニケーションを大切にしなければなりません。したがって、各研究室の学生代表との懇談や、各研究室のコンパに機械会役員も参加していくとか、教員との懇談を積極的に実施していく予定であります。

さらに、今、好景気？の影響を受けて機械工学科の学生は中小企業にはほとんど目をむいてくれません。しかしながら、大手企業の来年度採用人数は軒並み前年より減少しています。このことは何を意味しているのでしょうか。機械会としては、根気強く、在校生に対するキャリア事業を展開していきたいと考えております。

最後に、小生、機械会の会長を引き受けてから間もなく 1 年になろうとしております。この 1 年間で何ができたろう？と自問すると、機械会の活性化は中途半端な状態で、まだまだ自分の思うレベルには到達していない状態で歯がゆい思いをしています。

前会長も機械会誌で卒業生の皆様に機械会の活性化にお力をお貸しいただきたいと訴えていましたが、卒業生の皆様の反応はゼロでした。

母校が 100 周年を目前に控え、ノーベル賞受賞をはじめとする学術・研究面での活躍、大学女子駅伝や将棋部の全国優勝、アメリカンフットボール、硬式野球部、エコカー部など、クラブ活動も活躍をしております。同窓会はそうした母校の活躍を側面から支援していく重要な役割があります。なにとぞ、機械会の役員に名乗りを上げていただけますようお願い申し上げますとともに、皆様のますますのご活躍・ご発展とご健勝をお祈り申し上げてご挨拶とさせていただきます。

■■■■■ 機械会からの重要なお知らせ ■■■■■

「名城大学機械会誌」の送付について

機械会では、毎年発行している会誌を平成 28 年度より、機械会ホームページにて印刷出力可能な様式で公開しております。

機械会誌 53 号は、52 号送付時に同封しました「郵便はがき」で、引続き会誌送付を希望された会員の方々に、機械会誌を発送いたしました。

「郵便はがき」を返送する機会を逸した会員の方、新規に会誌送付をご希望される方は直接機械会事務局または、機械会 HP の問い合わせページから、「機械会誌の送付」とご記入のうえお申込みください。

機械工学科の近況報告

機械工学科

学科長 久保 貴



今年度から新たに学科長を務めさせていただきます久保です。機械会の皆様におかれましては益々ご健勝でご活躍のことと存じます。また平素は機械工学科の様々な活動にご協力、ご支援をいただき誠にありがとうございます。今年度は129名の学生が卒業し、新たに機械会会員になりました。簡単ではありますが、機械工学科の近況を報告させていただきます。

現在、機械工学科は教員数が15名で、今年度から大島成通先生、清水憲一先生、成田浩久先生、古川裕之先生が教授に昇任され、教授11名、准教授3名、助教1名の構成となっております。また分野は、「熱・流体」、「材料・強度」、「設計・生産」、および「運動力学・制御」の4分野で構成され、4力学を基礎として機械工学の主要科目をバランスよく網羅する体制となっております。入学定員は変わらず125名ですが、引き続き文部科学省からの定員厳守の指導があり、入学者数を定員に近づけることに苦勞しております。

今年度の入学生からは、カリキュラム改正が行われています。具体的には、教職課程への対応のために「職業指導論」という科目が3年前期に新たに開講されます。さらに、以下のような開講期の変更が行われています：機構学、2年前期→1年後期；機械振動学、3年後期→3年前期；機械工学実習、1年後期→2年前期；データ解析工学、2年後期→3年前期；計測工学、4年前期→3年後期；新技術概論、4年前期→3年前期。また「塑性加工」は「塑性加工学」に名称を変更しました。これらは、機械システム工学科から機械工学科に改組されて6年間が経過した中で、学生にとってより学びやすいカリキュラム編成を考えて行われたものです。

本学科における体験型学習の重要科目である「機械設計・製作」では、今年度も受講者の中からグローバルなコミュニケーション能力を高めるために、米国カリフォルニア大学と連携した「機械におけるグローバル設計交流研修～機械設計製作異文化交流～」をアブ

ラハ先生と大島先生が中心となり実施しています。さらに今年度は、カリフォルニア大学の9名の学生、2名のTA大学院生、および1名の教員が来日し、本大学に一週間のプログラムで滞在しました。滞在中は機械設計・製作の授業に参加していただき、各グループと設計課題に対して議論を交わしました。さらに、来日した学生たちに自分たちの設計製作課題について、機械設計・製作の受講者だけでなく4年生や大学院生あわせて約150名に対して発表を行ってもらい、国際的な経験の「学びのコミュニティ」を広げることができました。また、京都見学では機械会から頂きました教育基金の一部を使わせて頂き、本学科の学生が引率を行いました。

このような体験型学習を支える実習工場ですが、ここ数年担当職員の確保という大変困難な問題に直面いたしております。今年度は雇用延長が認められましたが、来年度からの採用の目処は立っておりません。機械会の皆様におかれましても、これまで同様ご理解、ご支援を頂きたくよろしくお願い申し上げます。

現在、天白キャンパスでは再開設計画が進んでおり、東門付近に研究実験棟III（仮称）が建設中です。さらに最近では4号館の解体工事が開始され、その跡地に建設が計画されている研究実験棟IV（仮称）に機械工学科も入る予定となっております。

元号も平成から令和に変わり、新たな時代を迎えようとしております。しかし、これからAIやIoTの時代となっても、ものづくりの基盤である機械工学の社会における重要性は変わることはありません。社会の変化に対応しながら、教育と研究を着実に積み重ねていくことが我々の使命と考え努力して参ります。しかしながら不十分な点もあると思いますので、今後とも機械会の皆様の一層のご支援、ご協力をいただきますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

2018 年度の就職状況

機械工学科 就職・進路支援委員

來海 博央

最近の就職状況はニュース等の報道にもある様に大変好調であり、機械工学科でも 2018 年度はここ 3 年間で最も「売り手市場」となりました。特に、2015 年の就職解禁時期の変更に伴い採用活動を思うように進められなかった企業や、人口減少と退職に伴う人材確保を必要とする企業の採用数の増加が求人に拍車をかけ、本学科の求人件数はここ 3 年間で毎年約 15,000 件（114 社／1 人）と高い水準となっています。求人は、自動車関連企業をはじめ、工作機械や材料のメーカー、プラント、社会インフラ、建設、食品など機械と直接関係ないとも思える分野も含め多岐に渡り、東海地区以外の企業からも増えています。このことから、ものづくりを支える機械技術者のニーズと本学卒業生の社会的評価の高さが伺えます。

採用活動は 2015 年に経団連の採用活動指針の変更により、2016 年から企業説明会が 3 月 1 日以降、選考は 6 月 1 日以降となっています。しかしながら、年々選考が前倒しとなり、2018 年度は多くの企業で 3 月からマッチング面談やジョブマッチングと称した実質的な選考が開始され、6 月 1 日以降に最終面接や確認面接を形式的に実施する企業が多くなりました。一方で、完成車メーカー等の超大手企業だけが経団連の指針を遵守した選考となっています。2018 年度の採用活動の特徴は、前年度からさらに 1 ヶ月前倒しとなり、かつ短いスパンでの選考、3 年生の夏・冬・2 月に開催されるインターンシップと結びつけた選考やリクルーターによる推薦、一部大手企業の採用数の大幅増、そして採用職種の詳細化と職種不問採用が挙げられます。2018 年度の中で最も印象的だったのが、選考時期によって内定の難易度が大きく変化したことです。企業側の採用人数の確保のためなのか、6～7 月にかけて多くの企業からの追加求人があり、それとともに多くの内定が出ましたが、4～5 月の基準と大きく異なる印象を受けました。選考における評価ポイントは「学力」と「人間力」で、前者では「SPI」や「基礎・専門試験」など、後者は「適性試験」や面接での「志望動機や自己 PR」、「コミュニケーション能力」、「キャリアビジョン」などです。

大学の就職支援体制は、移り変わりが激しい就職活動の環境に合わせて柔軟に対応し、大変充実しています。学科による就職支援体制とともに大学キャリアセンターによる支援体制がより充実し、1 年時の学科就職担当による「就職状況と学生生活の過ごし方」の講義とともに大学キャリアセンターによる「職業適性テスト」に始まり、インターンシップに向けたガイダンスの開催、3 年生後期には外部講師による「コミュニケーション力の向上」や「自己 PR」のための講演を行っています。12 月に就職ガイダンス、1 月末に就職希望調査、2 月末から学校推薦者の決定を行っています。これらの合間に、キャリアセンターを中心とした就職ガイダンス、就職試験講座、自己 PR 講座、面接模擬講座、履歴書道場、業界研究セミナー、学内企業セミナー、個別相談・指導、インターンシップ支援などの多数の就職支援行事が、就職活動の早期化に対応しな

がら 1～4 年生の適切な時期に開催され、4 年生の就職活動に向けて仕事観が醸成され、準備が整う様な環境となっています。

これらのサポートもあり、2018 年度の就職希望者の就職内定率は、大学院・学部ともに 100%（2015 年度から 100%）で、卒業生全員の進路を決定することができました。就職先の 85% 程度が製造業であり、地元の自動車関連企業を中心に工作機械メーカーなどへも就職しています。従業員別では 500 人以上の企業へ 7.5 割以上、1000 人以上の大企業へは 6 割程度の学生が就職しています。推薦での就職希望は、学部生で約 50%（後付推薦を含む）、大学院生で約 90% となっています。一方大学院への進学者は 40 名（昨年度 30 名）と大幅増となり、本学大学院へ 37 名、他大学大学院（名古屋大学 2 名、東京工業大学 1 名）へ 3 名と、就職状況が良い中でも大学院進学への関心が高く、進学率は 29% と理工学部中でも非常に高い（理工学部平均：17.1%）状況にあります。しかし、有名国立大学の大学院進学率の約 90% に比べて低く、今後多くの学生が大学院に進学し、社会に出て活躍することを期待しています。

今後も、流れの速い経済活動が地球規模で行われる中、機械技術者として十分に活躍できる人材を地道に輩出することが機械工学科の責務と考えています。2019 年度（2020 年卒）もほぼ同じ就職状況であるものの、1 年後は不透明な状況です。昨年末より周辺国を含み景気減速が現れはじめているだけでなく、2020 年度（2021 年卒）からは就職協定が撤廃され、就職活動の環境は激変することが予測されます。そんな中でも技術者として必要とされる人材を育成するとともに、東海地区を中心として多くの魅力ある企業に積極的に人材を送り込み、活躍していただくことで今後の日本のものづくりを支えていけたらと考えています。最後に、主要な就職先企業を掲載するとともに、機械会の皆様には今後も変わらぬご指導ならびにご支援を賜りますようお願い申し上げます。

[大学院]

JR 東海、アイシン精機（2 名）、アドヴィックス、ジェイテクト（2 名）、トヨタ車体、トヨタ紡織、ヤマザキマザック（2 名）、豊田自動織機、日本特殊陶業、オークマ、日軽エムシーアルミ、CKD、KYB、アイシン・エイ・ダブリュ、日東工業、日本軽金属、日本電産、香月堂、村田機械、東芝産業機器システム

[学部]

ANA 中部空港、CKD（2 名）、FUJI、JR 東海、アイシン・エイ・ダブリュ（9 名）、アイシン機工（2 名）、アイシン精機、アイホン、アンデン（2 名）、デンソー、トヨタ車体、トヨタ紡織（5 名）、フタバ産業、メニコン、ヤマザキマザック（3 名）、ヤマハ、愛知機械工業、河合電器製作所、参天製薬、住友電装、日本電産、浜名湖電装、豊生プレーキ工業、豊田合成（2 名）、豊田鉄工（4 名）、など

大学院進学（40 名）：名城大（37 名）、名古屋大（2 名）、東京工業大（1 名）

OB 近況報告

ヤマザキマザック株式会社

生産本部副本部長 大口製作所所長 山本 亨

昭和 60 年卒



1. はじめに

弊社ヤマザキマザックは、今年で創業 100 年を迎える工作機械メーカーです。私は大学卒業後に新卒として入社し、早いもので 34 年が経ちました。入社し NC 旋盤の改良設計・カスタマイズ設計を経験した後、技術本部で機械開発に従事してきました。現在は、生産本部に所属し横型マシニングセンタの国内生産拠点である大口製作所で生産に携わっています。この間、ものづくりも大きく変化し、工作機械も時代と共に変化してきています。この報告では、私が携わった仕事を通して今までの変化や現状をお話しさせていただきたいと思えます。

2. オリジナリティーのある商品開発

入社後、私が最初に配属された美濃加茂製作所（岐阜県美濃加茂市）では、弊社の主力汎用 NC 旋盤の『QUICK TURN』の生産が行われていました。この機械には、当時開発された世界初の対話型 NC 装置『MAZATROL』が搭載され、NC に関する特別な知識が無くても使える NC 工作機械として、多くの町工場で活躍していました。この NC 装置の開発が機械加工分野に NC 工作機械を拡げるための一翼を担ったと考えています。また、数年後には世界で初めて旋盤の主軸をモータ軸にしたビルトイン主軸を実用化し、このビルトイン主軸を搭載した先進的な主軸移動型対向 2 主軸 2 刃物台旋盤『MULTIPLEX』が開発されました。この機械もヒット商品となりました。私は入社して間もない頃に、このような先進的な機械の誕生の場面を見られたことが後の自身の開発設計者としての根底にある考え方を築き上げたと思っています。

入社から 10 年ほど経った頃、私は技術本部に異動して、新機種の開発業務に従事することになりました。幸いなことに当初の開発は、先述の『QUICK TURN』や『MULTIPLEX』のモデルチェンジを担当することになりました。モデルチェンジは前モデルに対して、如何に仕様・性能を上げられるかによって、開発の良し悪しが決まります。生産財である工作機械では、生産性・精度が市場で問われるため、前モデルの細部にわたるデータを再度収集し、無駄な動作時間を徹底的に排除することで、生産性を高め、センシング技術の活用によって、より一般的な工場環境下でも安定した精度を得られる機械開発を行ってきました。

2000 年頃より、私は今までに無かった立型旋盤とマシニングセンタを融合した複合加工機『INTEGREX e-V』の開発を担当することになりました。この機種の開発が設計者として、一番苦労しましたが、同時に楽しい時間でもありました。例えば、旋盤の主軸に求められる高速回転とマシニングセンタに求められる高剛性の一見相反する性能を同じユニット部品の中で両立

させる等、多くの課題を乗り越え商品化することができました。その後、私は弊社のフラグシップ複合加工機の 5 代目『INTEGREX-i シリーズ』の開発を行いました。



弊社の新機種開発では、オリジナリティが求められ、今までにない工作機械の開発が進められています。このようなオリジナリティ溢れる機械が市場に受け入れられ、活躍している姿をみると設計者として喜びを感じます。

最近では、工作機械は除去加工の殻を破り、FSW (Friction Stir Welding) 技術や AM (Additive Manufacturing) 技術を工作機械に融合させた付加工と除去加工ができるニュータイプの機械も商品化され、新しい生産方式に寄与しています。

3. 進化し続ける工場

さて、現在私は工場運営に関わる業務をしています。最新の工場は IoT を活用し、現場とオフィスを安全にネットワークで繋ぎ、現場から刻々と収集されるビッグデータを分析することで、生産効率を次々と高めるサイクルが生まれています。つまり、生産性向上を目指し、工場が日々進化し続けています。また、素材の仕分けや治具への取付け・取外しにロボットを活用、工作機械への工具の自動供給・排出も供給装置にて自動化を進めています。将来的には、AI 技術を活用し、さらに生産効率を上げていく事も手の届くところまで進んでいます。



4. おわりに

自動車の自動運転技術の革新が目に見えるスピードで進歩している今、生産現場も近い将来 SF 映画に出てくるような無人の工場、ものづくりが行なわれる日が来ることを私は夢見て信じています。その日に向かって、今の技術を実確なものにし、実現のために一歩一歩進んでいきたいと思っています。

スイスでの在外研究を経て

機械工学科

准教授 池本 有助



私は、本学の在外研究員制度を活用しスイス連邦工科大学ローザンヌ校、École polytechnique fédérale de Lausanne (EPFL) に Visiting Professor として 2017 年 4 月～2018 年 3 月まで約 11 か月滞在し、海外での研究活動を推進してきました。私が名城大に赴任してから 2 年後の渡航となりました。本執筆にあたりまして、ここでは、スイスでの研究活動や生活に関してご報告させていただきたいと思いません。

EPFL では、Dario Floreano 教授率いる Laboratories of Intelligent Systems (LIS) にて研究活動に邁進しました。ラボでは、知能システム・ロボットの研究開発を推進しており、様々な国（イタリア、フランス、ドイツ、アメリカ合衆国、スイス、韓国、中国、インド、シンガポール、オランダ、ポーランド、日本）出身のポスドク、エンジニア、および博士課程学生の約 15 人から構成されていました。従って、研究のスタイル、スピード、文化や考え方の相違を毎日感じるとともに、私自身、大変刺激を受ける毎日でありました。特に驚いたのが、ラボにおけるモノやソフトウェア開発を支えるエンジニア（日本でいうところの技官の方々）の人数が約 3 割を占めており、研究開発プロセスの役割分担が最適化されていたことです。さらには、私が滞在した 1 年間でも約 3 割の構成員が変化するという、人材の流動が極めてめまぐるしい環境でもありました。

少しだけ、研究の内容をお話させていただきますと、私は、棒と紐だけでつくられる Tensegrity Robot に関する研究を、ラボの博士課程学生とともに遂行していました。EPFL にきて初めて出会った研究テーマですが、これまでの私の研究スタイルのアップデートを期待するため新しいチャレンジをし、そして研究を通じた様々な交流をしました。

また、スイスでの私生活は、楽しさ半分苦しさ半分でした（笑）。妻と子供 3 人を一緒に連れて行っただけですが、やはり物価の違いから、家族には苦勞を掛けたと思います。食材の買い出しはフランス側で、平日は、

スイスですごく、といった日々が続きました。日本のようにコンビニがなく、しかも日曜日にはほとんどすべてのお店が閉まります。したがって、休日にはパンと生ハムと白ワインをもってピクニックに出かけることが多かったですが、それも大切な思い出です。

そもそも、私がこのような貴重な機会に恵まれたのは本機械工学科の先生方、ならびに日本に残った大学院生の協力が必須でした。学科によっては、他の先生の職務に影響が出るため、アプライすらしめない、またはさせてもらえないところもあると聞いております。場の空気をよみ飛び出す勢いが必要です。これに対し機械工学科の先生方は、「はやくいきなさい」と後押しして下さる先生しかいませんでした。私の知らないところで、多大なるご尽力ご協力をいただいたと推察いたします。この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。

最後になりましたが、今回の在外研究では、研究のみならず、文化の特色など、大変多くのことを学ぶことができました。ここで在外研究を支えてくれた家族や友人に感謝を申し上げるとともに、本学機械工学科での教育・研究の発展につなげていく所存でございます。



第12回名城大学機械会「機械会賞」授与式



メダル表



メダル裏

吉川研究室謹製
純銀製「機械会賞メダル」

受賞のことば

機械会賞

この度は、機械会賞という栄誉ある賞を頂き、心より感謝申し上げます。私がこのような賞を頂くことができましたのも、親切に御指導して下さった來海先生をはじめ、機械工学科の先生方、また研究に対するご助力、ご助言を頂いた來海研究室の先輩や仲間、そして大学の友人や家族といった沢山の方々の支えのおかげであります。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。私は大学院に進学するのですが、この受賞を機に日々への感謝の心を忘れず、そして慢心するのではなく、より一層、熱心に研究活動や講義に取り組み、社会に貢献できる技術者を目指して精進していきたいと思っております。今後とも皆様の期待に応えられますよう誠心誠意努めてまいりますので、御指導、御鞭撻をお願い申し上げます。最後に名城大学機械会の今後の発展を願ひまして受賞の挨拶とさせていただきます。



天野 竜太

機械会賞 特別賞

この度は、機械会特別賞という栄誉ある賞を頂き、大変光栄に感じております。このような賞を頂くことができたのも、熱心にご指導して下さった成田浩久先生をはじめ、機械工学科や実習工場の先生方、研究室の先輩方や友人、生活面で支えてくれた家族など多くの方々のおかげであります。この場をお借りして心から御礼申し上げます。4月から私は新社会人となり、慣れないことばかりではじめは苦勞するかと思います。大きな壁に直面した際も、研究活動で得た自信を胸に乗り切っていこうと思っております。今後も、皆様への感謝の気持ちを忘れることなく、社会に大きく貢献できる技術者を目指し精進する所存です。最後に、名城大学機械会の今後の発展を願ひまして受賞の挨拶とさせていただきます。



五藤 彰広

機械会賞 特別賞

このたびは機械会特別賞を賜り、ありがとうございます。今回の機械会特別賞は、自分ひとりの力で得たものではなく、懇切丁寧に指導して頂いたアブラハ教授をはじめ、機械工学科の先生方、研究室の先輩方や友人、そして生活面を支援して頂いた家族など多くの方々の協力あつての結果であると感じております。この場をお借りして御礼申し上げます。今後、社会人として多くの困難が待ち受けていると思っておりますが、名城大学で学んだことを存分に発揮し、一人の技術者として社会に貢献できるよう日々精進する所存です。また名城大学とのつながりを大切に、自身だけでなく本大学の質をさらに高められるよう活動していきたいと思っております。最後に、名城大学機械会のさらなるご発展を願ひまして受賞の挨拶とさせていただきます。



北本 真一郎

トピックス

理工学部機械工学科の古川准教授が日本実験力学会で論文賞

受賞者 古川 裕之 准教授 (理工学部機械工学科)
 受賞名 日本実験力学会 論文賞
 受賞日 2018 年 8 月 28 日
 受賞テーマ
 低アスペクト比におけるテイラー渦流れの PIV 解析による流れ構造解明に関する研究



理工学部機械工学科の北平さんが日本設備管理学会東海支部学生研究発表会で最優秀奨励賞

受賞者 北平 将崇さん (機械工学科 4 年、成田研究室)
 受賞名 一般社団法人日本設備管理学会東海支部 学生研究発表会 最優秀奨励賞
 受賞日 2019 年 3 月 1 日
 受賞テーマ
 相互相関関数を用いたエンドミルの工具寿命判定



理工学研究科の大橋さんが文部科学省ナノテクノロジープラットフォーム平成 30 年度学生研修プログラムに採択

採択者 大橋 孝太さん (機械工学専攻修士課程 2 年、来海研究室)
 採択名 文部科学省ナノテクノロジープラットフォーム平成 30 年度学生研修プログラム
 研修日 2018 年 7 月 30 日～8 月 3 日
 参加プログラム
 No.17 「透過電子顕微鏡法による材料微細構造解析」で採択
 No.13 「初心者のための TEM 基本操作」へ変更 (大阪北部地震により)



理工学研究科の伊賀さんが日本材料学会東海支部学術講演会で優秀講演賞

受賞者 伊賀 友一朗さん (機械工学専攻修士課程 2 年、来海研究室)
 受賞名 日本材料学会東海支部第 13 回学術講演会 優秀講演賞 (学術部門)
 受賞日 2019 年 3 月 4 日
 研究発表テーマ
 電着ナノ結晶ニッケルの疲労特性における結晶粒径および膜厚依存性



理工学研究科の矢敷さんが第 52 回 X 線材料強度に関するシンポジウムで最優秀発表賞

受賞者 矢敷 啓太さん (機械工学専攻修士課程 1 年 来海研究室)
 受賞名 日本材料学会 第 52 回 X 線材料強度に関するシンポジウム 最優秀発表賞
 受賞日 2019 年 1 月 11 日
 受賞テーマ
 第一原理計算を用いたラマン応力定数予測による応力評価



理工学部の天野さん、中野さん、鈴木さん、丹羽さんが学生員卒業研究発表講演会で Best Presentation Award

受賞者 天野竜太さん (機械工学科 4 年、来海研究室)
 中野真琴さん (機械工学科 4 年、大島研究室)
 鈴木慎矢さん (機械工学科 4 年、大島研究室)
 丹羽良介さん (機械工学科 4 年、大島研究室)
 受賞名 日本機械学会東海支部第 50 回学生員卒業研究発表講演会 Best Presentation Award
 受賞日 2019 年 3 月 6 日



理工学部機械工学科の大澤さんが日本設備管理学会東海支部学生研究発表会で最優秀発表賞

受賞者 大澤 くる美さん (機械工学科 4 年、成田研究室)
 受賞名 一般社団法人日本設備管理学会東海支部 学生研究発表会 最優秀発表賞
 受賞日 2019 年 3 月 1 日
 受賞テーマ
 摺 (しゅう) 動面におけるすり合わせ作業の自動化を目指した技能分析



第11回機械会杯ゴルフ大会開催のご案内

機械会会員相互の交流を図ることを目的として
「名城大学機械会ゴルフ大会」を下記の要領にて開催いたします

- 1 日 時 2019年8月31日(土) 7時20分までにパター練習場付近に集合
記念写真撮影・会長挨拶・連絡事項 7時45分からアウト・イン同時スタート
- 2 場 所 正眼寺カントリークラブ
- 3 住 所 岐阜県美濃加茂市伊深町 2345 TEL 0574-29-1891
- 4 会 費 プレー代 12,500円前後(個人精算)
(昼食 & コース売店各1ドリンク・パーティ & 1ドリンク含む)
参加費 1,000円(パーティ会場で徴収します)
- 5 競技方法 ダブルペリア方式: 打数制限(ダブルパーまで) HC 上限 36
使用ティ: 80歳以上は赤 ・ 70歳以上はシルバー ・ 一般は白
ニアピン: 6・8・11・15 ドラコン: 4・18
6インチプレス・カップインは必ず実施すること。OKパットはなし。
- 6 賞 品 機械会からの支援金があります。
- 7 参加人数 10組(40名)
- 8 申し込み メール又はFAXにてエントリー願います。
- 9 締め切り 定員になり次第、締め切りします。



第10回機械会杯ゴルフ大会の参加の皆さん 2018年9月9日

宛先 名城大学機械会 FAX 0568-81-8639

機械会 ゴルフ大会 参加エントリーします。

	お名前	連絡先(住所)	卒業年度
		電話番号(携帯)・FAX	生年月日

申込締切日: 予定を組み入れ、早めの予約をお願いします。

【問合わせ先】 Tel 090-5115-6472 Fax: 0568-81-8639 【機械会: 森澤 厚(S45)】
: E-mail: < morisawa@ukai-s.co.jp >

平成 30 年度 名城大学機械会 事業報告 (案)

平成 30 年度の事業経過は以下の通りです。

1. 名城大学機械会誌第 52 号を発行
 - ・機械会ホームページに掲載、および正会員の郵送希望者および準会員（在校生）へ配布した。
2. 名城大学機械会第 61 回総会を次の通り開催。
 - ・日時：平成 30 年 6 月 10 日（日）9：30～10：20
 - ・場所：名城大学共通講義棟南館 S402 講義室
 - ＊審議・報告事項＊
 - 江上会長挨拶の後、以下の項目について審議・報告を行った。
 - (1) 平成 29 年度事業報告および会計報告がなされ、承認された。
 - (2) 平成 30 年度事業計画（案）および予算（案）について審議し、承認された。
 - (3) 新任教員の紹介。
 - (4) 新役員及び新評議員紹介。
3. 第 10 回機械会杯ゴルフ大会開催
 - ・日時：平成 30 年 9 月 9 日（日）
 - ・場所：正眼寺カントリークラブ
 - ・参加者：26 名
 - 優勝の昭和 56 年卒 三輪容功氏に機械会杯が授与された。
4. 機械工学科教員と機械会役員・評議員の懇談会を開催

機械会の今後の活動方針の参考とするために教員との意見の交換を行った。

 - ・日時：平成 30 年 10 月 18 日（木）18：00～
 - ・場所：名城大学 校友会館 第一会議室
 - また、懇談会終了後シャトーにて懇親会を開催した。
5. 研究室ゼミ長と機械会役員・評議員との懇談会を開催

4 年生に対し機械会への理解活動を目的とし機械会の活動について説明と懇談を行った。

 - ・日時：平成 30 年 11 月 29 日（木）18：00～
 - ・場所：名城大学 校友会館 第一会議室
 - また、懇談会終了後シャトーにて懇親会を開催した。
6. キャリア事業の開催

就職活動を控えた 3 年生を主な対象として就職に関する講演を行った。

 - ・日時：平成 30 年 12 月 1 日（土）16：30～17：45（質疑応答を含む）
 - ・場所：名城大学天白キャンパス共通講義棟東 302 室
 - ・演題：企業が求める学生像
 - ・講師：富士精工株式会社社長 森 誠 様
7. 第 15 回新春交流会を開催

会員相互の交流を図るため、新春交流会を開催。

 - ・日時：平成 31 年 1 月 26 日（土）17：00～
 - ・場所：ホテル名古屋ガーデンパレス 翼の間
8. JABEE に伴う外部評価委員会の活動への参画（平成 31 年 2 月 9 日開催）
9. 次の学生行事に対し援助
 - (1) 名城大学機械会杯（第 49 回）& 機械工学科長杯争奪ソフトボール大会への援助。（平成 30 年 9 月 3 日開催）

野村会長が開会式に出席して挨拶および始球式を行った。

また、大会後の親睦会で森澤副会長より優勝チーム（吉川研チーム）に優勝旗を授与。
 - (2) 平成 30 年度卒業記念パーティーへの援助。（平成 30 年 3 月 20 日 ANA クラウンホテル）

野村会長および江上直前会長、森澤副会長、鈴木会計監査が出席、卒業生に対し野村会長より祝辞を送った。

また、機械会賞を来海研究室の天野竜太君へ、機械会特別賞をアブラハ研究室の北本真一郎君（院生）と成田研究室の五藤彰広君へ授与した。
10. 理工同窓会および各学科同窓会主催行事への参加
11. 機械会役員会・評議員会の開催

平成 30 年度において、2 回の役員会と 7 回の評議員会（平成 31 年 3 月 2 日最終）を開催し、種々の審議を行った。

平成 31 年度 名城大学機械会 事業計画 (案)

本会会則に掲げる本会の目的達成に必要な事業を行うほか、本年度は特に次の事業を中心として活動する。

1. 平成 31 年度第 62 回総会の開催
 - ・日時：令和元年 6 月 9 日（日）9：30～
 - ・会場：名城大学共通講義棟南館 S402 講義室
2. 評議員会・役員会の開催
3. 名城大学機械会誌第 53 号を発行
 - ・機械会ホームページに掲載、および正会員の郵送希望者および準会員（在校生）へ配布。
4. 名城大学機械会杯（第 50 回）& 機械工学科長杯争奪ソフトボール大会への援助
5. 平成 31 年度卒業記念パーティーへの援助
6. 機械工学科教員と機械会役員との懇談会
7. 各研究室のゼミ長と機械会役員との懇談会
8. 在校生を対象としたキャリア事業の開催
9. 機械工学科卒業生への機械会賞及び機械会特別賞の贈呈
10. JABEE に伴う外部評価委員会の活動への参画
11. 機械会杯ゴルフ大会の開催（令和元年 8 月 31 日開催予定）
12. 理工同窓会および各学科同窓会主催行事への参加
13. その他、本会の目的達成に必要なと認められる行事

平成 30 年度 名城大学機械会 会計報告 (案)

(自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日) [単位:円 消費税込み]

	科 目	予 算	決 算	備 考
収入の部	前年度繰越金	249,347	249,347	
	新入会員会費	1,450,000	1,390,000	139名(2019年3月卒業者数)
	理工同窓会援助金	280,000	281,000	助成金・卒業記念品代
	繰入金	300,000	0	* 運営資金積立金より繰入補填
	雑収入	10,653	5,223	寄附, 利息等
	合 計		2,290,000	1,925,570
支出の部	会誌発行費	500,000	192,888	第52号印刷, 会誌発送費, 封入封緘, OP封筒代等
	行事費	600,000	511,248	学生行事援助(卒業記念Party等), M科教員懇談会等
	会議費	350,000	291,610	評議員会(7回) * 交通費含む
	事務費	40,000	25,591	事務用品, 印刷費等
	HP/ウェブサイトメンテ費	150,000	130,140	HPトメイン・メンテナンス関連
	運営資金積立金	0	0	
	予備費	650,000	370,162	退職記念関連, 他同窓会交流会祝儀
	計		2,290,000	1,521,639
	次年度繰越金		403,931	
合 計		2,290,000	1,925,570	

・運営資金積立金現在高
14,387,736 円
 ・名城大学「機械会賞」基金
2,031,805 円
 (平成 31 年 3 月 31 日 現在)

会計監査報告
 種々調査の結果、収支ともに相違なきことを証明します。

会計監査 鈴木吉正 ㊞
 中村達郎 ㊞

平成 31 年度 名城大学機械会 予算 (案)

(自 平成31年4月1日 至 令和2年3月31日) [単位:円 消費税込み]

	科 目	予 算	備 考
収入の部	前年度繰越金	403,931	
	新入会員会費	950,000	95名[2020年3月卒研着手者(=卒業予定者)]
	理工同窓会援助金	280,000	下部組織助成金
	繰入れ金	0	運営資金積立金より繰入れ
	雑収入	69	寄付, 利息等
	合 計		1,634,000
支出の部	会誌発行費	200,000	第53号印刷, 機械会封筒代, 郵送代
	行事費	600,000	学生行事援助(スポーツ大会, 卒業記念Party, ゼミ長懇談会, 就職セミナー等)
	会議費	400,000	評議員会, 役員会, 編集会議, 各種委員会等
	事務費	55,000	事務用品, はがき, 郵送費等
	HP/ウェブサイトメンテ費	140,000	HP/ウェブサイトメンテナンス保守費用
	運営資金積立金	0	
	予備費	239,000	学科教員との懇談会, 他同窓会交流会祝儀等
合 計		1,634,000	

第15回 名城大学機械会

平成31年1月26日[土] 17:00～
ホテル名古屋ガーデンパレス

名城大学機械会

新春交流会



一年のスタートを皆で楽しく迎えました。

